

平成30年3月期決算参考資料

1. 連結業績の推移

連結業績

(単位：百万円)

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	前期比	平成31年3月期 予想
売上高	4,020	3,949	1.8%	4,301
売上総利益	1,446	1,521	5.1%	1,725
(売上総利益率)	(36.0%)	(38.5%)	2.5pt	(40.1%)
(販売管理費率)	(27.7%)	(31.4%)	3.7pt	(31.0%)
営業利益	332	282	14.8%	391
(営業利益率)	(8.3%)	(7.2%)	1.1pt	(9.1%)
経常利益	318	322	1.2%	402
親会社株主に帰属する 当期純利益	194	234	20.4%	290

国内海外別売上高 連結

(単位：百万円)

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	前期比	平成31年3月期 予想
国内売上	2,476	2,192	11.5%	2,327
海外売上	1,544	1,757	13.8%	1,974
計	4,020	3,949	1.8%	4,301

注) 上記海外売上区分に属する主な国：アメリカ、カナダ、中華人民共和国、イギリス、タイ

研究開発費・設備投資

(単位：百万円)

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	前期比	平成31年3月期 予想
研究開発費	233	236	1.5%	220
設備投資額	200	219	9.9%	419
減価償却実施額	171	178	4.5%	216

その他

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	前期比	平成31年3月期 予想
為替レート(1US\$)	108.40円(平均)	110.88円(平均)	-	110.08円(期末)
為替レート(1人民元)	16.11円(平均)	16.74円(平均)	-	17.79円(期末)
従業員数(期末)	296名	303名	2.4%	-
臨時従業員数(平均)	99名	92名	7.0%	-

【注意事項】

本資料は発表済の決算内容や業績予想について補足的に説明するものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。今後の業績は前提の変化により予想と異なる可能性があります。

2. 連結業績の概要

前年同期比で売上高が1.8%の減収、損益面では営業利益が14.8%の減益、また経常利益は1.2%、親会社株主に帰属する当期純利益は20.4%の各々増益となりました。詳細は決算短信を合わせてご参照ください。

売上高

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善、企業部門での設備投資や生産の増加、また個人消費の緩やかな持ち直しなどの動きが見られましたが、海外では米国経済が堅調に推移する一方で対外政策の行方は引き続き不透明であり、さらには中国経済成長率の鈍化や北朝鮮等の地政学的リスクの高まりなど景気下振れのリスクが払拭できない状況が続いております。

当社の属するカーアフターマーケットにおきましては、国内市場では全体的に精彩に欠け低調に推移する中、需要拡大時期に向かう年初において全国各地で記録的な大雪に見舞われ、さらには他社との競争環境などもあって厳しい状況となりました。他方、海外市場においては、地域毎での好不調の差があったものの、全体的には堅調に推移しました。

このような情勢のもと、当社グループにおきましては、戦略的新製品「EnduraPro」「EnduraPro PLUS」のラインアップの拡充に傾注し、グループ一丸となって既存製品と合わせ販売の一層の強化に努めました。また配送システムの見直しや各種イベントへの出展を継続するとともに、国内外の地域特性に適した各種多様な販売キャンペーンにも力を注いでまいりましたが、前述の影響などから国内販売は伸び悩む一方で、比較的好調だった海外販売が国内の落ち込みをカバーするには至らなかったことなどから、通期の売上高は前期と比較して若干の減収となりました。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

損益の面においては、中国の生産拠点の稼働が本格化したことに伴い売上総利益率が改善したものの販売管理費の増加などもあり営業利益は減益となりました。一方で、経常利益、また親会社株主に帰属する当期純利益については為替差益の影響などもあり各々増益となりました。

【注意事項】

本資料は発表済の決算内容や業績予想について補足的に説明するものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。今後の業績は前提の変化により予想と異なる可能性があります。

お問合せ先
株式会社ティン 管理課（IR担当）
TEL 045(810)5511